

第77回運輸政策セミナー オンライン開催のご案内

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび運輸総合研究所におきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「運輸政策セミナー」をオンラインにて開催することとなりました。

つきましては、ご関心をお持ちの皆様におかれましては、ご参加を賜りますようご案内申し上げます。また、ご関心をお持ちの方々に広くご周知頂ければ幸いです。

ご参加に当たりましては、大変恐縮ですが、申込み専用 URL からお申込み頂きますようお願い申し上げます。

敬具

記

○第77回運輸政策セミナー（オンライン配信）

日 時：2021年9月10日（金）15:00～17:00

会 場：オンライン（Zoom ウェビナー）

テ ー マ：地方都市・社会を持続可能とするための地域鉄道の持続可能化方策を考える

～新型コロナウイルス感染症を契機として～

1. 基調講演

テーマ：地方の都市・社会を持続可能に示る鉄道のあり方と制度的知見

講 師：金山洋一 国立大学法人富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 教授
（学科長）都市政策支援ユニット長 地方鉄軌道等再生支援センター長
運輸総合研究所 研究アドバイザー

2. 講 演

テーマ：アフターコロナにおいて持続可能な地方と鉄道

講 師：伊東尋志 前えちぜん鉄道株式会社専務取締役

テーマ：アフターコロナを見据えた地域鉄道あり方 ～ひたちなか海浜鉄道のこれまでと今後～

講 師：吉田千秋 ひたちなか海浜鉄道株式会社代表取締役社長

3. パネルディスカッションおよび質疑応答

モデレーター：金山洋一 国立大学法人富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科教授
（学科長）都市政策支援ユニット長 地方鉄軌道等再生支援センター長
運輸総合研究所 研究アドバイザー

パネリスト：講演者

4. 全体講評

山内弘隆 運輸総合研究所所長

参 加 費：無料

お申込み：下記の URL よりお申し込みください

<https://krs.bz/jterc/m/semi210910>

（申込期限：9月8日（水）まで）

※お申し込み頂いた方には、9月9日（木）午後に視聴用 URL をご送付いたします。



5. 概 要

少子高齢化等の進展により地域鉄道を取り巻く環境は極めて厳しい状況にあり、廃線となる路線がある一方、維持したいとの地域の声により存続が図られている路線もある。このような中、新型コロナウイルスの影響により、鉄道利用者が減少するなど、ますます地域鉄道は厳しい状況に置かれている。これにどのように対応するのか、また、持続性のある地域鉄道とは何かを議論し、今後の取り組みを提示する。

●基調講演：地方の都市・社会を持続可能にしうる鉄道のあり方と制度的知見

地域の鉄道は、大都市圏とは全く異なる厳しい事業経営状況におかれ、廃線に至ったり、自治体による支援策によって存続が図られたりしてきました。本セミナーでは、富山市のコンパクトシティ政策や海外の事例等を交えながら、都市の観点から鉄道を考えます。そして、コロナを機に明らかになったことも踏まえ、地方都市・社会を将来にわたって持続可能とするために鉄道が果たしうる役割と、それを可能とする制度的知見等を示します。

地方だけでなく、JR,大手含めて全ての鉄道会社にとって、成長しない社会、変化する社会と自然にどう対応するかが共通の課題となっており、コロナ禍により残された時間がさらに少なくなった。

●講 演：アフターコロナにおいて持続可能な地方と鉄道

地方だけでなく、JR,大手含めて全ての鉄道会社にとって、成長しない社会、変化する社会と自然にどう対応するかが共通の課題となっており、コロナ禍により残された時間がさらに少なくなった。

「社会から求められる鉄道サービス」ということは、今や地方鉄道事業者だけでなく、大手私鉄各社も経営戦略の中核として位置付けている。しかし、株主利益とのジレンマの状況をどう解決するか、また社会が持つ鉄道の役割とのイメージの整合をどう取るのかということにつき、事業者としての認識統一、または政策の整合性が図られるには程遠いのも実情である。

このような鉄道や公共交通についての「理想と現実」のギャップを解消し、持続可能な社会システムとして存在できる条件とは何かということについて考察する。

●講 演：アフターコロナを見据えた地域鉄道あり方

～ひたちなか海浜鉄道のこれまでと今後～

ひたちなか海浜鉄道は、廃線の危機にあった茨城交通湊線の経営を引き継ぎ、2008年4月営業を開始した。

市民・行政・事業者一体となった取組を進めた結果、開業10年で黒字化を達成、地域鉄道としては異例の延伸も計画されている。

ところが、コロナ禍により旅客輸送人員はほぼ半減、開業以来の危機に立たされた。

この苦境を打開し長く地域鉄道を維持・活性化するため、付加価値の創生を図るべく新たな取り組みを模索する。

●基調講演：地方の都市・社会を持続可能に示る鉄道のあり方と制度的知見

講 師： 金山洋一 国立大学法人富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 教授
(学科長) 都市政策支援ユニット長 地方鉄軌道等再生支援センター長
(一財)運輸総合研究所 研究アドバイザー

(経歴)

1982 年東京大学工学部土木工学科卒、日本国有鉄道入社。広島、鹿児島鉄道管理局、新幹線総局軌道管理係長。1987 年（国鉄改革）日本鉄道建設公団（現（独）鉄道・運輸機構）。運輸省（現国土交通省）、本社調査課総括補佐、北陸新幹線第二建設局次長、東北新幹線建設局次長、計画課長、北海道新幹線建設局長、技術企画部長。実務経験は地方線～新幹線の線路保守・速度向上等、鉄道の調査・計画、建設（用地、協議、公共調達、工事、開業）、行政。2005 年に鉄道分野の官民分担論（上下分離）にて博士（工）（東京大学社会基盤学専攻）。同年、博士論文の考え方が骨格として採用された都市鉄道等利便増進法法制化。2018 年現職。2019 年地方鉄軌道等再生支援センター長、2021 年学科長、都市政策支援ユニット長。

2018～2021 年：国土交通省社会資本整備審議会交通政策審議会技術部会 国土交通技術行政の基本政策懇談会委員など。

著書（共著）：改訂 電気鉄道ハンドブック（コロナ社）2021 年 5 月



●講 演：アフターコロナにおいて持続可能な地方と鉄道

講 師： 伊東尋志 前えちぜん鉄道株式会社専務取締役

(経歴)

福井県出身

1992 年 神戸大学法学部卒

1992 年 福井県庁

1998 年 アメリカ NJ 州立ラトガース大経営学大学院卒

2008 年 プライスウォーターハウスクーパース株式会社

2010 年 えちぜん鉄道株式会社管理部長

2011 年 えちぜん鉄道株式会社取締役

2014 年 えちぜん鉄道株式会社専務取締役（2021 年まで）

2017 年 えちぜん鉄道株式会社安全統括管理者（2021 年まで）

2021 年 6 月 えちぜん鉄道株式会社退任

東京大学出版会：「地域公共交通政策論」（第 5 章-1 担当）, 2021

「地方鉄道事業者にとってのネットワーク再編と役割」, 一般財団法人運輸調査局「運輸と経済」, 2016 年 7 月号

「会計・統計情報から見る第三セクター鉄道の存在意義」, 運輸と経済, 2019 年 2 月号

「鉄道駅に残る近代史の記憶—えちぜん鉄道の有形登録文化財—」, 運輸と経済, 2020 年 6 月号

「えちぜん鉄道と福井鉄道の相互直通運転のあゆみ」：一般財団法人交通統計研究所「交通と統計」, No62, 2021 年 1 月



●講演：アフターコロナを見据えた地域鉄道あり方

～ひたちなか海浜鉄道のこれまでと今後～

講師：吉田千秋 ひたちなか海浜鉄道株式会社代表取締役社長

(概要)

ひたちなか海浜鉄道は、廃線の危機にあった茨城交通湊線の経営を引き継ぎ、2008年4月営業を開始した。

市民・行政・事業者一体となった取組を進めた結果、開業10年で黒字化を達成、地域鉄道としては異例の延伸も計画されている。

が、コロナ禍により旅客輸送人員はほぼ半減、開業以来の危機に立たされた。

この苦境を打開し長く地域鉄道を維持・活性化するため、付加価値の創生を図るべく新たな取り組みを模索する。

(経歴)

- 1988. 3 富山大学経済学部卒
 - 1988. 4 富山地方鉄道株式会社 入社
 - 2001. 10 万葉線株式会社 転籍
 - 2008. 4 ひたちなか海浜鉄道株式会社取締役社長 就任
 - 2012. 4 ローカル鉄道・地域づくり大学代表理事 拝命
- 一貫して、地域鉄道の活性化の任にあたる。



運輸総合研究所は日本財団の助成を受けて活動を行っております。

Supported by  日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

お問合せ：一般財団法人運輸総合研究所 企画部（担当：新倉）

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-19（UD 神谷町ビル）

TEL：03-5470-8415 FAX：03-5470-8419

E-mail：collo@jttri.or.jp

HP：<https://www.jttri.or.jp/>